

NEWS RELEASE

2011年5月12日
コベルコクレーン株式会社

コベルコクレーン 2011年3月期 決算概要

本年3月11日に発生した東日本大震災の被害は甚大なものでありました。被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

当社グループでは、被災地へのラフテレーンクレーンの寄贈を行ないました。また、被災されたお客様の保有機点検活動も推進しております。今後も被災地への迅速な製品・サービスの供給に全力で取り組んでまいります。

【2011年3月期の概況】

世界のクレーン市場では、リーマンショック以降の需要の低迷から北米・欧州・中東など、従来需要の中心地とされてきた地域での回復が遅れている一方、中国をはじめとする新興国では需要の伸張が見られ、需要構造が大きく変わってきております。世界全体では、クローラクレーンの総需要は前年度に引続き低迷しております(約3%減)。

加えて、円の独歩高により、当社をはじめとする日系メーカーには特に厳しい事業環境となりました。

国内市場においても、公共事業投資の減少に加え民間設備投資の落ち込みによる買い控えにより、当社の主要製品であるクローラクレーンの需要は前年度比17%減となりました。

このような情勢の中、当社グループは『新中期経営計画“1111”』の初年度を迎えました。厳しい環境の中でのスタートとなりましたが、新中期経営計画に基づき、着実に事業活動を展開しております。

当社グループでは積極的な拡販活動、特に大口顧客への対応など販売台数の最大化に努めるとともに、生産効率の改善によるコストダウンや調達コストの削減など、全社を挙げて収益確保に取り組みました。しかしながら、需要減、円高影響を短期で克服することは出来ず、売上高は前事業年度比22.8%減収の40,968百万円、経常損益は3,046百万円減益の1,363百万円の損失、当期純損益は1,872百万円減益の956百万円の損失となりました。

<2011年3月期の実績>

{単位:百万円、()内は前年同期比}

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	2011年3月期	40,968 (△22.8%)	△1,362 -	△1,363 -	△956 -
	2010年3月期	53,056	1,581	1,683	916

■海外戦略拠点の拡充

インドのクローラクレーン市場は、旺盛なインフラ投資を背景に急成長しています。このインド市場への取り組みを強化するため、当社グループによる100%出資の販売サービス会社『KOBELCO CRANES INDIA PVT. LTD. (本社：ニューデリー)』を、2010年8月に設立しました。続いて、2011年3月にクローラクレーン生産工場の建設に着手しました。新工場はインド南東部チェンナイ市近郊に位置する「SRI CITY (スリシティ) 工業団地」に建設し、設備投資完了のタイミングで製販一体の会社に改組します。

世界最大のクローラクレーン市場である中国では、従来の現地法人(上海)における日本生産機販売に加え、競争力向上を図るため現地生産を開始することを決定しました。現地生産にあたって、四川省成都市において中国の建設機械メーカーである四川成都成工工程机械股份有限公司と共同で、製販一体の合併会社『成都神鋼起重機有限公司』を2010年9月に設立しました。新会社が位置する内陸部では、拡大延長が決まっている「西部大開発」といった大規模開発事業が進行しており、更なる需要の拡大が期待されます。

両拠点においては、現地調達の推進などにより競争力を強化しつつ、需要家のニーズを的確にとらえ、迅速に対応してまいります。

■国内・海外サービス体制の強化

顧客満足度向上とサービス事業の拡大を図るべく、カスタマーサポート本部を2010年4月に新設しました。カスタマーサポート本部は国内・海外の部品・サービス事業を統括し、事業の強化、収益の拡大に取り組めます。

さらに2011年1月に東日本センター(神奈川県横浜市)を設立しました。新車・中古車・部品販売・サービスの一体運営を行うことで、より現地に密着した活動を展開してまいります。

■環境性能を高めた新機種の開発・発表

世界三大建機展の一つである『CONEXPO (米国ラスベガス 2011年3月)』において、新型クローラクレーン12機種を北米・欧州市場に向けて発表いたしました。期間中多くの来場者がブースを訪れ、当社の商品、開発への取り組みに対して高い評価をいただきました。

この新機種では、従来より重視してきた「輸送性」「組立性」「操作性」に加えて「環境性能」を高めた開発を行いました。

北米・欧州における最新の排ガス規制に対応しているだけでなく、オートアイドルストップ、高効率な最新の制御システムにより、現行機比最大30%の燃費低減をはたしております。

その他にも、輸送性の大幅改善等、顧客満足度向上につながる新機能を搭載しており、更なる拡販をはかります。

■その他の取り組み

部品調達先との協業体制強化による、生産・開発コストの削減、品質の更なる向上に取り組ましました。

【今後の重点課題と2011年度の見通し】

本年3月11日に発生した東日本大震災による、当社グループへの直接的被害はありませんでした。しかしながら、東北および関東地方に所在する部品調達先の中に大きな被害を受けたところもあり、当社においても生産ラインの一部停止を余儀なくされました。上期中にはサプライチェーンがほぼ正常化する見込みであり、取引先との協力体制のもとで早期挽回を図ります。

2011年度は、2010年4月に策定しました『新中期経営計画“1111”』の2年目となります。新中期経営計画において掲げた、「『技術・ブランド力』を事業基盤に据えて、『グローバルステージ』で存在感を示すコベルコクレーン」を目指し、事業活動に取り組んでまいります。環境・安全・品質・サービスの総和を世界のお客様から評価される企業となること、「ものづくり力」で世界の業界をリードする移動式クレーンメーカーを目指し、次の飛躍に向けた施策を進めてまいります。

<重点取り組み課題>

- 日印中3拠点「グローバルものづくり体制」の確立
- 地域戦略を軸とした最大販売量の確保
- 海外戦略拠点の更なる拡充
- 国内、海外サービス体制の強化
- 次世代クレーンの開発
- 全社経営効率アップとコストダウンの推進

2011年度は、引き続き新興国を中心に需要が伸びる他、日本を含めた従来需要地である北米・欧州・中東でも穏やかな回復が期待され、全体としては需要増加を予想しています。

当社グループでは、新機種の拡販、及び海外調達拡大と更なる生産性向上によるコスト競争力の強化を軸に収益の拡大を図ります。また、インド・中国現地生産の早期立上げに取り組めます。

当社グループとしては2011年度黒字化を計画しておりますが、震災が生産・販売に及ぼす影響について未だ不確定要素が大きく、現時点での具体的な業績予想の公表を差し控えます。

以 上

平成23年3月期 決算業績概要

会社名 コベルコクレーン株式会社
代表者 代表取締役社長 藍田 勲
問合せ先責任者 経営企画部長 平川 武通 TEL : 03(5789)2130
親会社名 株式会社神戸製鋼所(当社株式の保有比率:100%)

1. 平成23年3月期の連結業績(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(1) 連結経営成績

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
23年3月期	40,968	1,362	1,363	956
22年3月期	53,056	1,581	1,683	916

	一株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	%	%	%
23年3月期	9,217 50	3.4	3.0	3.3
22年3月期	8,826 67	3.0	3.3	2.9

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	一株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期	44,251	27,751	62.6	267 35
22年3月期	50,415	30,308	60.1	291 98